

マンツーマン・ディフェンス コミッショナー・マニュアル

マンツーマンディフェンスの基準①

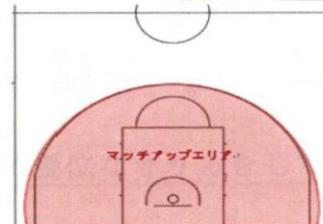
各種競技会において、ゾーンディフェンスの判定はマンツーマンコミッショナーが行うこととなります。
マンツーマンディフェンスの基準は下記の案を前提に精査を行い、公式ルールとして発行します。

ゾーンディフェンス禁止に伴う、マンツーマンディフェンスの基準(案)

ゾーンディフェンスの判定は「大会主催者が任命したマンツーマンコミッショナー」(以下「責任者」)が行う。

1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップルールはマッチアップエリア(3ポイントラインを目安とする)内では常に適用される。ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、責任者にわかること。



2. プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時(フルコート、3/4コート及びハーフコート)でもマッチアップルールの基準に合致すること。

注意点:様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である! プレスディフェンス採用時のルールは以下の通りである(フルコート、3/4コート及びハーフコート):

・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実にし、責任者にマッチアップが明確にわかるように行うこと。

8

マンツーマンディフェンスの基準②

3. オンボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大1.5メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフェンス側プレイヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレイヤーがボールマンに付く意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジすること。

4. オフボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフェンス側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン(オフェンス側プレイヤー)及びボールも見えるポジションを取る(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンス側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く)。

ボールを保持していないオフェンス側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフェンス側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、ヘルプまたはトラップに行く場合を除いて、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは違反である。



9

まずはじめに

マニュアルや基準も大切ですが、導入された経緯や背景、理念についてもしっかり理解したうえで、子どもたちの指導に活かしてください！！

1) マンツーマンディフェンスの見分け方

(1) マッチアップ表現

- ・ ディフェンスプレーヤーの一人ひとりが、オフenseプレーヤーをそれぞれマークし、マンツーマンを意識しているかどうか。
- ・ 手の動作、視野（向き）、声、接触、ポジション等で、マンツーマンディフェンスを意識しているかどうか。
- ・ ボールや相手と共に動いているかどうか。

【マッチアップ3つのサイン】

「目のサイン（アイコンタクト）」、「言葉のサイン（声）」または「手のサイン（ピストル等）」により、誰をマッチアップしているのかをわかるように意思表示すること。

(2) 7mエリアの意識

- ・ 速攻以外の場面において、守るゴール側のスリーポイントエリア付近（7mエリア）からディフェンスを始めているかどうか。
- ・ 1人のプレーヤーだけでなく、チームとして統一したディフェンスをしているかどうか。

悪い例1)

1人のプレーヤーが守る側のゴール付近、残りのプレーヤーがハーフラインからディフェンスを始める。

悪い例 2)

プレーヤー全員が、守る側のゴール付近や3秒制限区域から出てこない。

【7mエリア目安】

3ポイントラインは、ゴールから6m75cmなので、目安はラインよりやや外側の場所となる。

(3) オンボールディフェンス

- ・ オンボール（ボールを持っているプレーヤー）へのディフェンスは、
1. 5m以内の間合いで、ボールの方を向いて立つこと。
(ボールに対して背中を向けない)

【1.5m目安】

ブロックショットができないでも、シュートチェックができる距離（目安は一步半）のことをいう。

- ・ トラップは可。
ボールサイドにいるマークマンのディフェンスの、ボールマンに対するダブルチームは可。
ただし、トラップのプレーが終わったら、はっきりと「マッチアップ」を表現し明確であればローテーションが許される。
- ・ スイッチは可。
ピック、スクリーン、トラップ、ヘルプ後の状況において、スイッチは可。
ただし、スイッチ後に、はっきりと「マッチアップ」を表現すること。

(4) オフボールディフェンス

① ミドルライン越え

- ・ ヘルプサイドにいるマークマンのディフェンスは、ボールサイドにポジションをとることができない。

- ・ ミドルラインをまたぎ越してポジションをとることができない。
- ・ ヘルプまたはトラップに行く場合を除いて、最低限、片足はヘルプサイドに置いてポジションをとらなければならない。

【ヘルプサイドディフェンスについて】

1. ミドルラインがボールサイドとヘルプサイドのボーダーラインとなる。
2. ヘルプサイドとは、ミドルラインをはさんでボールのない側のことをいう。(ボールサイドと逆)
*ミドルラインとは両バスケットを結んだ仮想のライン
3. 自分のマークマンとボールマンを必ず見ている。

※コミッショナーがわかるように表現しないとイケない。
(マッチアップ3つのサイン)

② 早いヘルプ

- ・ ヘルプサイドにいるマークマンのディフェンスは、ボールマンとゴールの間にディフェンスがいない状態の時、カバーやヘルプを行うためにボールサイドに移動することができる。
(ドライブで抜かれた場合など)
- ・ ただし、ヘルプで守れた場合は、ローテーションで「マッチアップ」が行われること。

③ トラップ (スローイン)

- ・ オフボールのオフenseプレーヤーへのダブルチーム、トリプルチームは不可。
- ・ スローイン時に、レシーバーへのダブルチーム、トリプルチームは不可。
(スローラーのマークマンだけでなく、他のプレーヤーも不可)

【いつならいのか?】

ボールを保持している人の手からボールが離れた瞬間からダブルチームはしてもよい。

④ スイッチ（スクリーンなし）

- ・ オフボールのオフenseプレーヤー同士がポジションを変えた場合、マッチアップしているディフェンスプレーヤーも、オフenseプレーヤーと共にポジションを変えなければならない。
（ポジションが入れ替わった場合など）
- ・ オフボールのオフenseプレーヤー同士のスクリーンがない場合のポジションチェンジでは、ディフェンスプレーヤー同士の安易なスイッチは不可。（特にヘルプサイドにおいて）
- ・ オフボールのプレーヤーに対しての数的優位な守り方をしてはいけない。
- ・ スイッチした後にマンツーマンディフェンスをすること。ディフェンス側プレーヤーがスイッチした場合プレー中にディフェンス側プレーヤーが直ちに新しいオフense側プレーヤーとマッチアップしたことがコミッショナーにわかるよう表現しないとイケない。
（マッチアップ3つのサイン）

(5) ゾーンディフェンス

- ・ チームがプレスディフェンスを採用した時でも、マッチアップルール、オンボールディフェンスルール、オフボールディフェンスルールの基準に合致すること。
- ・ プレスディフェンスとは、フルコート、3/4コート、および、ハーフコートを指す。
- ・ 様々なゾーンディフェンス、または、コンビネーションディフェンスは、7mエリアの外においても不可。

(6) その他

- ・ 導入にあたっては、指導者のみならず保護者の方々の理解も必要になる。
- ・ このことは成長段階にある子どもたちが対象になることから、体力や技術不足により起こる違反行為については配慮が必要となる。
- ・ ゾーンディフェンス禁止については、相手チームのクレームは禁止する。クォーターの間やハーフタイムにコミッショナーに相談してください。
- ・ マンツーマンディフェンスの導入に関して今年度は過渡期にあります。新しい資料等ができましたら随時変更していく。

2) コミッショナーについて

(1) コミッショナー制度の導入

大会運営本部は、必要なときにコミッショナーを設けることができる。
(全国大会は常時設置)

コミッショナーには、混乱が生じないように、判別に熟知している者を任命する。

必ず、任命された者がコミッショナーに携わり、コミッショナーとわかるように腕章等で工夫する。(資格は問わない)

(2) コミッショナーの具体的職務

- ① 位置 試合を見渡せる場所 (オフィシャル席の反対側)
- ② 人数 1人 (2人でも可)

- ③ 時間 オフィシャル席の準備の時間から試合終了まで
- ④ 任務 マンツーマン・ディフェンス・コミッショナー・チェックシートを有効に用いて、明らかにゾーンディフェンスと判明した場合は、審判に合図をする。(旗を振る)

その直後のタイムが止まっていると時に、審判にその旨を伝え、審判は双方のコーチをオフィシャル席に招き、該当チームのコーチに内容説明をした後、審判が警告を与えることができる。

その間、プレーヤーはベンチ付近に待機させるが、タイムアウトではないため、ベンチ指示はできない。

必要ならば、コーチからプレーヤーに説明することができる。

※ 石川県ミニバスケットボール連盟による追記

上記、要件にあてはまる場合で、故意的もしくは過度なゾーンディフェンスを行っている場合に限って適用する。

故意的もしくは過度なゾーンディフェンスと認めることが難しい場合は、クォータータイム時に、審判にその旨を伝え、審判は両チームのコーチに説明をすることができる。

- ⑤ 試合後の処置 速やかに大会本部に報告する。

(3) 事後処置について

試合後、速やかに、今後同じルール違反をしないように大会本部で指導する。また、本部が定めた書式に、その旨をまとめ、報告書として保管する。

悪質な場合や2度目以降にルール違反をした場合、大会本部の判断により、各都道府県ミニバスケットボール連盟を通じて、日本ミニバスケットボール連盟に報告書を提出する。

(全国大会は日本ミニ連主催のため、各都道府県ミニ連の手続きは不要)

日本ミニバスケットボール連盟が事実を確認した後、日本ミニバスケット

トボール連盟が行う特別講習に、そのコーチが参加しなければならない。講習を終えるまでは、日本ミニバスケットボール連盟が定めるところのライセンスの資格停止期間とする。

3) 日本バスケットボール協会（JBA）との連携

マンツーマンディフェンス推奨について、十分な理解を促進するために、日本ミニバスケットボール連盟とJBAが協働して、説明会・講習会を要請に応じて開催する。

JBAがホームページに掲載したマンツーマンディフェンス解説文書とビデオが、日本各地において伝達されることを望む。

最後に

石川県のバスケットボールに関わる指導者、保護者を含めた関係者の皆さんには、本趣旨を正しくご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします！！

石川県ミニバスケットボール連盟
平成27年11月3日作成
平成28年1月6日誤字等修正